

全国ネット通信

2018 春号 Vol.30
平成30年4月発行

温暖化対策とSDGsとESDの関わりについて

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

代表理事 重 政子



持続可能な地球環境社会の構築には環境汚染や気候変動による課題解決は避けて通れない大きな問題である。気候変動により地球上のあらゆる国々の経済・社会に混乱が生じ、人々は深刻な影響を受けている。その気候変動の大きな要因となる人間の活動に起因する温室効果ガスの排出が増大し続け、気候変動を加速化している事は周知の事実である。この気候変動対応戦略のカギが温暖化防止対策にある事として我々は日々の活動を行っている。日本における温室効果ガス排出量の推移は2008年～2012年の削減目標(1990年比6%削減)達成以降、2011年の東日本大震災・東京電力福島原子力発電所爆発事故の影響等により遅々とした進捗状況であり、2050年80%削減の実現に向けて様々な人びとから深刻な懸念が示されている。パリ協定では締結国に2020までの長期戦略策定・提出を求めており、今後日本が提出する長期戦略の中で国内における温室効果ガス削減と世界レベルの温室効果ガス削減にどのように貢献できるかが問われている。国の成長戦略シナリオでは、実用化目処の立っている省エネルギー技術や低炭素エネルギーの導入によって温室効果ガスの削減可能な見通しが付いていると示されている。また、世界的な取り組みとしても、2℃目標の達成のみならず、地球全体の持続可能性のために低炭素社会から脱炭素社会への新産業革命とも云える活動も始まっている。となれば、市民として、社会の仕組みや経済成長に関わる人の意識改革・行動変容のための教育等を通じてより一層の変革を急ぎ進めなければならない。

持続可能な開発のための教育 (ESD^{*1}) 分野では、言い古されて尚、意味深い、「Think Globally, Act Locally」というスローガンを、個人の意識改革や行動変容を唱えるだけでは不十分であるとし、市民としてのエンパワーメントを高め、市民社会のあらゆる分野のあらゆる立場の人が、Be The CHANGE 社会の変革者として、地球規模の課題解決のために現実的で具体性に富んだ取り組み行動を目標に呼びかけてきた。これを「ESD for SDGs」として捉える。

SDGsは、持続可能な開発目標 (Sustainable Development

Goals : 以下SDGsと表記)の頭文字であり、2015年国連サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030年アジェンダ」の中核を構成する。「人間、地球及び繁栄のための行動計画」である。これはまた、より大きな自由における普遍的な平和の強化を迫るものでもある」という前文の基に17の目標と169のターゲットからなり、2030年を達成期限として、先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等の全ての人が「誰ひとり取り残さない」社会の実現をめざして、経済・社会・地球環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むものとして提唱された。国連広報センターでは【(SDGs)とそれを支えるターゲットの要素は、いずれも“人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップ”という極めて重要な分野で、これは全ての人々のアジェンダであり、すべての次元で、そしてすべての場所で、不可逆的に貧困に終止符を打つための行動計画として、今後15年間の行動を促すことになる】とも解説している。

巷でビジネススーツにカラフルな丸いSDGsのキャンペーンバッジを付けている人を目にする。7年ぶりに改定された経団連の企業行動憲章のポイントがSDGs達成を柱としていること、また、内閣府がSDGs未来都市の公募を行い自治体での取り組みを促していることも私たちに市民として主体的な創造性とイノベーションの発揮が求められていることと受け止められる。所属の民間団体関連でもESDとSDGs関連の研修依頼が増えておりSDGsに関する関心は高まる一方である。「誰も取り残さない (no one left behind)」・「持続可能な開発のための変革 (transformation)」としてSDGs達成には持続可能な開発のための教育 (ESD) が重要である。SDGsの達成に向けてESDの観点を踏まえた人材育成が進むよう、ESD活動支援センター (全国センター)^{*2}が設置され、更に全国8ヶ所に地方センターが発足し、地域ESD活動推進拠点の活動が始まっている。地域地球温暖化防止活動推進センターの皆様の専門性を活かし、SDGs達成に向けて全国、地方双方のセンターとの連携協働の期待が高まっている。

^{*1} Education for Sustainable Developmentの頭文字

^{*2} <http://esdcenter.jp>

低炭素杯2018結果報告！

2月15日(木)日経ホール(東京都千代田区)で開催した「低炭素杯2018」は、全国1,167団体の中から選ばれた4部門(ジュニア・キッズ(以下、JK)、学生、市民、企業)30団体のファイナリストが趣向を凝らしたプレゼンテーション発表を行いました。

その結果、笹川博義環境大臣政務官より環境大臣賞が、神山修大臣官房審議官より文部科学大臣賞が授与されたほか、低炭素杯2018アンバサダーのルー大柴さんも登場し、下記の賞が贈られました。

環境大臣賞

グランプリ	岩手県立遠野緑峰高等学校
金賞(JK部門)	学校法人静岡理工科大学星陵中学校
金賞(学生部門)	宮城県農業高等学校 科学部復興プロジェクトチーム
金賞(市民部門)	大阪府 住宅まちづくり部 公共建築室 設備課
金賞(企業部門)	倉持産業株式会社



文部科学大臣賞

社会活動分野	認定NPO法人芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館	学生活動分野	草津市立渋川小学校
--------	----------------------------	--------	-----------

企業/団体賞

セブン-イレブン記念財団 最優秀地域活性化賞	佐賀県立唐津南高等学校 松露プロジェクトチーム
LIXIL 最優秀エコライフ活動賞	米子工業高等専門学校 物質工学科谷藤研究室
ユニ・チャーム 最優秀エコチャタリング賞	佐賀県立佐賀商業高等学校 さが学美舎
ニトリ 最優秀 夢・未来賞	橋本市立あやの台小学校 エコマート
ウジエスーパー 最優秀エコガニック賞	兵庫県立篠山東雲高等学校
損保ジャパン日本興亜環境財団 最優秀わくわく未来賞	神奈川県立相原高等学校 畜産部相原牛プロジェクト
タカラトミー 最優秀次世代賞	越谷市立大袋東小学校
オルタナ 最優秀ストーリー賞	花王株式会社 鹿島工場
気象キャスターネットワーク 最優秀地域・学校エコ活動賞	大田区立大森第六中学校

アンバサダー特別賞 大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜

審査委員特別賞 富士ゼロックス福島株式会社 無料オリジナルツール事務局

マクドナルドオーディエンス賞 草津市立渋川小学校 / 米子工業高等専門学校 物質工学科谷藤研究室

優秀賞 太子町立中学校 社会科学部 / 愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company部 / NPO法人循環生活研究所 / 仙台市 / NPO法人エコロジーオンライン / 区役所通り登栄会商店街振興組合、登戸東通り商店会、多摩区まちづくり協議会 多摩エコスタイルプロジェクト / 東根市 / エコなうつわ屋さん / 株式会社山全 / 株式会社ファンケル / 株式会社技術開発コンサルタント / 日産陶業株式会社



低炭素杯2018 環境大臣賞 グランプリ

岩手県立遠野緑峰高等学校

取組概要

遠野市は、ビールに使われているホップの一大産地です。しかし、毎年200トンの蔓が廃棄されそのほとんどが焼却処分されています。そこで私たちは、試行錯誤の末廃棄される蔓から繊維を抽出し、世界に類のないホップ和紙を誕生させました。これによってCO2の削減にも繋がるほか、ホップ農家の担い手不足という課題に、和紙を通じた新たな農業の魅力を発信し、ホップ農家の産業振興と所得向上を目指しています。



Q. グランプリを受賞された感想はいかがですか？

廃棄されるホップ蔓から環境に負荷をかけない和紙の製作が評価されたことは、小規模校の私たちにとって本当に嬉しく継続してきて良かったと実感しています。今後もしっかり地域に根付いた研究として成長させていかなければならないと気持ちが引き締まる思いです。

Q. 受賞後の反響はいかがですか？

ホップ農家や育てる会、行政の皆さん、そして遠野市民に祝福されました。何より私たちの研究に誇りと自信を持つことができ、それを受け継いで現在も研究している後輩たちの研究心をかき立ててくれたこと、そしてホップ農家の生産意欲につなげて頂いたことに感謝しています。

Q. 今後どのような展開をお考えですか？

年々、少子高齢化が深刻な遠野市に活力を提供するためにも、ホップ和紙による手漉き和紙の文化を新たに創造し特産品開発につなげていきたいです。そして育てる会の産業化をより具体化させ、ホップ農家の担い手不足をチーム遠野として解決していきたいと本気で考えています。

うちエコ診断の年間診断件数が1万件を突破しました！

うちエコ診断は、平成29年度に10,108件の診断を実施され、平成23年度家庭エコ診断推進基盤整備事業からカウントして初めて年間診断件数が1万件を超えることができました。この場をお借りしてうちエコ診断士及び診断実施機関の皆様方に対し御礼申し上げます。

実施されたうちエコ診断10,108件のうち、事後調査票が回収できた4,028件のデータによれば、5,054t-CO₂/年の排出削減を見込むことができます。

診断の担い手として、新たにNPO法人静岡県新エネルギー推進機構（浜松市センター）及びNPO法人環境首都とくしま創造センター（徳島県センター）の2つの地域センターに加え、大手ホームセンターやガス供給事業者、建設業など12の民間団体が診断実施機関として認定されました。うちエコ診断士の資格試験では、初の開催となる札幌市を含む6会場で開催し、合格者183名が活躍をしています。

また、うちエコ診断の普及啓発として、エコライフ・フェア2017やこども霞が関見学デーといったイベントへのブース出展のほか、雑誌の記事や民間企業・地域センターなどの広報等で紹介され、より一層、周知することができました。

平成30年度は、93の診断実施機関、1,362名のうちエコ診断士の体制から進めていきます。今年度は特に、うちエコ診断ソフトに住宅リフォーム等の対策提案を組込むなどのソフト改修を行って、診断メニューを拡充する予定です。また、うちエコ診断の知名度向上や受診者の拡大を図るため、一部の地域センターで先進的に行われている、学校等のネットワークを活用して受診を拡げる仕組みを全国的に展開することを目指すほか、引き続きあらゆる機会やメディアを積極的に活用して、うちエコ診断の普及に務めていきたいと考えています。

※本文中の数値は平成30年4月12日現在のデータです。



イベントへのブース出展の様子

うちエコをテーマとした大学の講座

家庭エコ診断制度の詳細は・・・ [家庭エコ診断](#) [検索](#)

推進員のための活動ガイドライン作成マニュアル完成

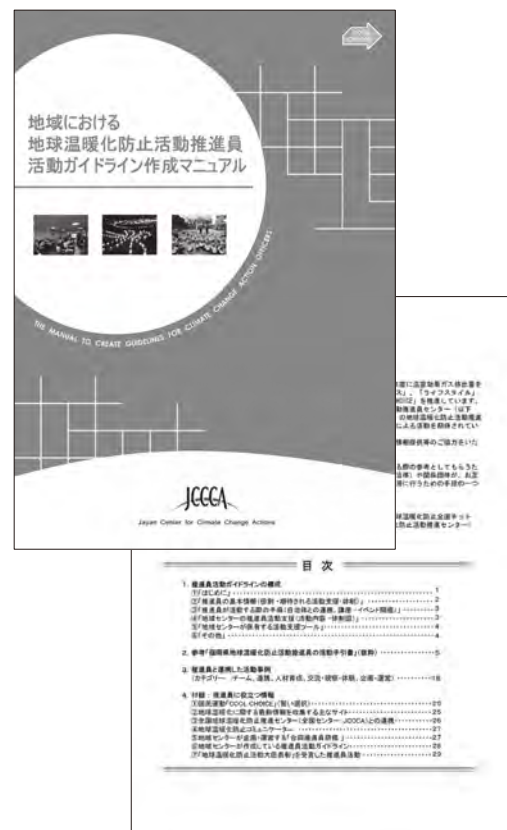
このたび、「地域における地球温暖化防止活動推進員 活動ガイドライン作成マニュアル」が完成いたしました。

日本政府は、2015年のCOP21で採択された「パリ協定」を受けて、2030年度に温室効果ガス排出量を26%削減（2013年度比）することを掲げ、低炭素型の「製品」、「サービス」、「ライフスタイル」等、地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を推進しています。そして、この目標を達成するために、全国59か所の地域センター、及び全国の約6,600人（平成29年7月現在）の推進員が、地域に根差したより一層の連携・協力による活動を期待されています。

そこで、全国センターでは、地域センターが推進員を対象にガイドラインを作成する際の参考としてもらうために、典型的な構成を提案するものとして、本マニュアルを作成いたしました。作成にあたっては、地域センターや推進員の方々から情報提供等のご協力をいただきました。

本マニュアルでは、福岡県センターが推進員向けに作成した活動手引書の構成をもとに、ガイドラインの作り方の紹介、地域センターが推進員と連携した活動事例、推進員に役立つ情報（国民運動「COOL CHOICE」、地球温暖化に関する最新情報を収集することが可能なサイト、地球温暖化防止コミュニケーター等）も紹介しております。

本マニュアルは、全国センターウェブサイトにてダウンロードが可能です。地域センター、推進員、行政（自治体）や関係団体が、連携し合いながら、地域の特性を活かし、地球温暖化防止に向けた活動を円滑に行うためのツールの一つとしてご活用いただけましたら幸いです。



詳細は・・・ [JCCCA 推進員マニュアル](#) [検索](#)

「学童保育×温暖化防止プロジェクト」プログラム、完成です!

プログラム・ツール開発

全国ネットでは、学童保育を利用する小学生低学年を対象に、子どもと学童保育指導員の方々が繰り返し継続して取り組めるプログラム・ツールの開発を通し、子ども達が生活の中で当たり前の地球温暖化防止行動が取れるようになることを目的に、地球環境基金の助成を得て、平成28年度から3年計画でプロジェクトを始動しています。

昨年度は、夏休み期間を中心に5主体8ヶ所、合計166名の小学生を対象とした試行実施を通して「環境マーク」に関するプログラムを、加えて、秋より2主体2ヶ所、合計62名の小学生を対象とした試行実施を通して「二十四節気」をテーマにしたプログラムの2種類を開発しました。



「環境マーク」に関するプログラム



「二十四節気」に関するプログラム

報告会開催

開発したプログラムをお披露目・体験いただく報告会を2月に開催し、関東近県の学童保育指導員や環境学習施設の関係者、地球温暖化防止活動推進員を中心に46名の方々にご参加いただきました。報告会では、本プロジェクトの概要説明、各プログラムの簡単な体験実施とともに、試行実施を行った学童保育の指導員の方から「二十四節気プログラムは、指導員の立場からは子どもの目線で季節感を理解でき、子どもも新たな季節感に触れることのできる、互いにとって発見が多いツールです」といった“現場からの生の声”をご報告いただきました。

報告会に参加した学童指導員の方からは「子どもとの良いコミュニケーションツールとして生かせると感じた。環境やエコに結び付けてできるのはとてもやりがいがあると感じた」「環境に想いをはせる人を育てることも学童保育の仕事であろうと思っている」といった、大変有意義な感想をいただきました。

本プロジェクトの最終年度となる今年度は、さらに多くの学童保育の現場をはじめとした親子の集まる場においてプログラムの実施を重ねて、確立を図ります。

ご興味のある方は、ぜひお声がけください!



エコアナウンサー

櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「じゅん散歩」レポーターほか、「低炭素杯」の司会など。



日本における新年の地域環境活動発信のスタート!と言っても過言ではない低炭素杯2018も盛会に終わりました。今回は新たなチャレンジがいくつもあり、勢いと面白さが増しました。参加者の皆さん、スタッフの皆さんに司会として心より感謝申し上げます。

新年度が始まり、皆さん仕事に活動に邁進なさっていると思います。忙しい毎日と察しますが、時には季節を感じに出掛けてみませんか。昨今、温暖化によって、以前より季節感が失われつつあることが残念ですが、だからこそ季節を味わいたいですね。

先日、茨城県つくば市の道路わきの田んぼで雉に遭遇。3歳の娘は草陰から出てきた雉にビックリ。いえ、雉の方がビックリだったことでしょう!日本の国鳥であり、春の季語ともなっている雉に季節を運んできて貰った気がしました。あなたの季節の楽しみ、見つけてください!



春の田で雉に遭遇

編集後記

今年の桜の開花は、全国的に例年より1週間程度早くなりました。私の地元の公園での桜祭りは中止となり、駅のポスターは置き去りにされたまま淋しそうでした。チューリップや芝桜などの開花も早まり、おそらく、ツツジや五月の開花も早まるのではと思ってしまいます。地球温暖化を感じてしまう一つの事象であるといえるでしょう。

楽しいことが早くやってくるのは嬉しいことですが、地球の温暖化が早まるのはいたできません。特に、今年の冬は猛烈な寒波が日本全体をスッポリと覆い、長く居座ったことで、日本海側は記録的な大雪。九州や四国でも記録的な積雪となり、そこで暮らす人々に甚大な被害をもたらしました。しかも、2~3カ月前の話です。そして、3月末から4月にかけて、各地で夏日を記録しています。あまりにも早いと思ってしまうのは私だけでしょうか。

日本には四季があって、季節ごとの祭りや風習が各地で脈々と引き継がれてきたことで文化が守られてきました。気候変動は、これらの仕組みすらも壊してしまうのでしょうか……。

事務局長 野口 正一

賛助会員
募集中!

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの活動をサポートしてください!

年会費: 個人会員1口 5,000円(1口以上)
団体会員1口 20,000円(1口以上)



【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット (JNCCA)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3
第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100
http://www.zenkoku-net.org/

